

会員の広場

Member's Voice

今月の会員の広場では、8月号へのご意見・ご感想を紹介いたします。まず、特集「エンタテインメントコンピューティング」に対しまして、以下のご意見をお寄せいただきました。

■今回の特集は最高に面白かったです。ユビキタスからその先を見た感じの特集でとてもよかったです。特に大阪大学の塚本先生の記事はとても面白く、今まであまり学問として認知されていないエンタテインメントという分野の将来性を感じました。SONYの藤田さんの記事もとてもよかったです。今後もユビキタスからその先の応用や新技術、新分野の特集を期待しています。(匿名希望)

■今回の特集では、いずれの記事も、他事例との比較や比喩を用いながら、エンタテインメントを工学の研究対象として扱うことの理由付けをしている。それらはいずれも論理的に説明されており、異論を唱えるところではないが、それらがあまりに理由付け一辺倒なところがやや気になった。学生・研究者として興味があるのは、むしろそこで使われるテクニックの話だろうと思う。反復するイントロダクションは簡略化し、テクニカルな記述がもう少し含まれることが望ましいと感じた。(満上育久)

■ゲーム、アニメ、漫画などは従来、学術対象とはされてきませんでした。しかしながら、今後新たな研究対象となり得る可能性を秘めていると思います。(水野光朗)

■モデリングや指標に具体性のある記事が興味を持って読みました。特集全体として、情報系だけではなく、たとえば心理学の専門家の論客などがいてもよいと思いました。(匿名希望)

■全体的に内容の薄い議論に終わっている感があり、非常に残念でした。これが実用化されたとき、世の中がどう変わるかということも突き詰められていない(少し想像を膨らませれば思いつきそうな創造)し、非常に偏っていて短絡的な提案に終わってしまっているような気がします。(匿名希望)

■エンタテインメントコンピューティングは、今年1月に大阪で開催されたもので知った。すでに国際会議も開催されているのを見て嬉しく思う。今後の発展を祈ります。(匿名希望)

■エンタテインメント分野にITがどの程度利用され、またどのような製品等が実現されているのか大変参考になりました。しかし、論文中にも一部指摘されていましたように、利用する側の人間や社会との友好な関係について、人文科学や社会科学等の広い分野から、その存在の必要性や問題等についての研究も欠かせないと思います。(中島豊四郎)

次に、解説「ダイヤの乱れを克服する一鉄道の運行管理システムの現状と今後」に対しては、対象が身近な鉄道ダイヤであったため、多くのご意見をお寄せいただきました。

■鉄道の運行管理システムの現在の状況を知ることができ、将来オートメーション化が必須であるということを考えさせられた。ただ、データの量が莫大であり、組合せ最適化として考えた場合に速さ、正確さを要求される本問題の解決はかなり骨の折れるものであろうと思われる。(匿名希望)

■ダイヤの回復は改めて難しい問題と感じた。外国で事故や故障でダイヤが大幅に乱れる経験がいくつかあるが、それでも国内に戻ると少々の乱れにもイライラしてしまう。そう感じている読者が多数いると思われるが、この記事で日本の鉄道運行管理は努力されているのだと感じたことであろう。(匿名希望)

■日本を代表するシステムを知ることができました。コンピュータの力ではなく、意外に人の力に頼っていることに驚きます。それも広大な線路網を秒の単位で管理しているわけですし…。欧米と比べて、時刻に正確という正体を垣間見たような気がします。このような作業は日本人の十八番なんだと改めて感じさせられました。(小野 勉)

■鉄道の運行管理システムのIT化が思ったより進んでいないのに驚いた。東海地震などの不測の事態に対する災害管理等(たとえば、利用者に迂回経路や復旧予測時間を迅速に伝達するシステム)、早急の対策が必要なのではないかと感じた。(匿名希望)

■運転整理にはケースバイケースで臨機応変な対応が必要なだけにその難しさは計り知れない。時には、非熟練者での対応を迫られることもあるが、IT化推進は必要だが、その限界の見極めが重要である。(匿名希望)

■鉄道運行管理の問題、課題がよくまとめられており、勉強になりました。現場での課題解決に積極的にITを取り込まれている姿とその運用の難しさを具体的に感じることができました。コンピュータはどんなに高度な機能を持ったとしても所詮は機械であり、機械には限界があり、最後は人間が判断することになる。このコンピュータや情報処理技術の限界と、それを利用して判断する人間との役割分担の泥臭い界面を生々しく感じることができました。いま情報処理は、研究室でのチャレンジ以上に、泥臭い現場での利用がまさに求められているのではないかと思います。特に地震予知や予知安全など膨大な状態情報の分析と人間感性とのトータル判断に向けた予知技術の開発、現場応用に期待しています。(北村和彦)

コラム記事では、「情報技術と教育：プロの能力差は2倍?」に関して多くのご意見をお寄せいただきました。

■「情報技術と教育：プロの能力差は2倍?」は非常に興味深く読ませていただきました。いろいろなことについて、このような視点を持った方に書いて欲しいです。(江崎浩明)

■本テーマは、ソフトウェアを開発している企業等が抱えている大変大きな問題であり、興味深く読みました。ただ、この分野の仕事に従事した経験から、技術者の能力の測定方法として挙げられている資格制度は結構だと思いますが、クリエイティブな能力をいかに測定するかも重要だと思います。(中島豊四郎)

■プロの能力差は2倍とのことだが、それは日本国内に限られたことではないと思う。このような批判ばかりの記事を書くのならば、現在の情報科学のカリキュラムと企業が望むべき人物像を照らし合わせ、今後必要とされる情報教育の在り方を問うべきではなかろうか。当然国内だけにとどまらず他国との比較

を徹底的に行うべきであろうし、このコラムで述べられているような机上の空論で済むようなものではないと思う。(鈴木秀直)

■誤解を恐れずに言うと、プログラマやSEは、「使い捨て」にされている感があります。技術の進歩を個人が積極的に勉強することは当然ですが、勉強するための時間(と若干の経済的報酬)について企業側も配慮してほしいと思います。(水野光朗)

その他の連載・コラムに関しては、以下のご意見を寄せていただきました。

■項書き換えシステム、定理自動証明といったことを専門に研究しているので、「プログラム・プロムナード：代数式を比較する」に興味深く読みました。(匿名希望)

■「「慣れ」から見たヒューマンインタフェース」:「ヒューマンインタフェースに関しては、それを実現するメカニズム以外で特許を取らないこと」とある。まさにその通りである。昭和54年に大手ゲームメーカーの社長も「遊び方にパテントはない」とテレビのインタビューで発言している。皆が共有するモノ(道具の使い方・遊び方・楽しみ方)にはパテントを取る必要などない。(黒井 剛)

■「モバイルは今」:このアンケートを送信しているのは、ノートPCです。しかしながら、バックアップはめったにとりません。というのも、バックアップのとり方が、デスクトップPCと比べて複雑だからです。「いつでも誰でも簡単に」バックアップをとる方法があれば、紹介してほしいと思います。(水野光朗)

■「日本のIT事情」:このコラムは大事な視点を紹介してくださっている…と思われるが、解説自体は尻切れトンボではなかろうか。限界のある各国政府行政機能を超えて、諸企業の個別営利追及での社会的公正を担保にするための「信頼できる第三者機関(TTP:Trusted Third Party)」についての言及が最後の文章にちょこっとあるが、その具体的中身が何も記述されていない。A kind of global NPO(not-for-profit organization)かな…と好奇心をそそられるが…。参考文献の2)3)あたりに、もしかするとそれが記述されているのかもしれないが、関連のWebサイトのURLが示されていないのは、専門外で勉強したい一般読者には、不便、不適切ではなかろうか。なお、それよりも、須藤先生ご自身の本誌への本件続編の追加ご寄稿を大いに期待したい。(島崎誠彦)

■「20世紀の名著名論」:Smalltalk-80の書評は、大学時代初めてsmalltalkを体験した人間として大変興味深くまた懐かし

く読ませていただいた。ちょうどC++を勉強し始めたころに、この本でsmalltalkの徹底したオブジェクト思想に触れることができたのは、個人的にも大きな影響を受けた。(匿名希望)

今後取り上げてほしいテーマ・研究分野に関しては以下のご要望をいただきました。

■歴史や過去の話より、「今一番新しい研究分野」についての記事が欲しい。(加藤雅裕)

■プログラミング言語関連の企画を希望します。C++やJavaなどの産業界で主力となっている言語だけではなく、理論研究用の言語も網羅していただけたらと思います。(匿名希望)

■住民基本台帳ネットワークのシステムについて、特に懸念される事項を中心に解説してほしい。(匿名希望)

■エンドユーザ利用を考える意味で、パソコンの普及率や企業導入に感われない家庭利用率、そして今後の技術の使われ方、家庭内コンピューティングというかホームコンピュータ環境の動向や今後の方向性などを企画として取り上げていただきたい。(金納 洋)

■一昔前に、電子マネーが急速に普及するような感じで流行っていたように思います。それも最近では落ち着いて着実に広がっているように感じるこのごろですが、現在、最先端技術ではどのように情報処理と結びついているのかとの観点で特集を組んでいただければと思います。(小野 勉)

■特許の連載記事で、昨年4月号に我が国の技術分野別出願件数、情報通信分野の全特許出願件数に対する比率が掲載されていたが、「とっきょNow!」にて一度、米国特許のデータについて記載して欲しい。(匿名希望)

■パネル討論「(情報)技術立国を支えるために教育現場に求めるもの、企業側にもとめるもの」(北村和彦)

■AIBO, SDR, アシモ等の有名なロボットに関して、もう少し詳しい解説、特集を組んで欲しいと思った。(島崎誠彦)

会誌や掲載記事に関するご意見・ご感想は学会Webページでも受け付けております。今後もよりよい会誌を作るため、ぜひ皆様のお声をお寄せください。

【本欄担当 出口 豊, 祖父江恒夫/書評・ニュース分野】

ご意見をお寄せください!!

皆様にとって会誌をより役立つものとするため、

- ・記事に対する感想、意見
 - ・記事テーマの提案
 - ・会誌または学会に対する全般的な意見、提言
 - ・その他、情報処理技術についての全般的な意見、提言
- など、自由なご意見、ご感想をお待ちしております。

なお、「道しるべ」については

<URL: <http://www.ipsj.or.jp/katsudou/mag/michishirube.html>>

でこれからのテーマ案を募集しており、いただいたご意見をまとめております。

※ご意見、ご感想を会誌に掲載させていただいた方には薄謝を進呈いたします。掲載に際しては、編集の都合上、ご意見に手を加えさせていただくことがあります。あらかじめご了承ください。

応募先 〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F
情報処理学会 会誌編集部門 E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax: (03)5484-3534
<http://www.ipsj.or.jp/enq/enq4411.html>

皆様からいただいた会誌へのご意見は下記Webページにも掲載しております。
<URL: <http://www.ipsj.or.jp/katsudou/mag/dokusha.html>> (読者からの声)

